東北大学文学部「人文社会総論」
2025-04-25

現代日本学の世界

田中重人
(東北大学文学部現代日本学専修)

レポート課題

文章や映像などにみられる、日本に関する記述や描写で、あなたが興味深いと思った部分をとりあげ、その内容を紹介したうえで、どういう点で興味深いのかを説明せよ。当該の記述や描写が未見の人にもわかるよう紹介すること。

茂木謙之介, 田中重人, Christopher Craig (2022)「現代日本学　複数の視点で捉える〈日本〉」『人文社会科学の未来へ』東北大学出版会.

【目次】

はじめに：現代日本学とは
1. 映画『ゴジラ』にみる科学者像
2. メディア表象から考える『ゴジラ』
3. 歴史とゴジラ
おわりに

以下の動画・静止画の引用は東宝発売のDVDビデオ (TDV26142D) による。一部はフリーソフトによって画面キャプチャしたため、上部に文字列が挿入されている場合がある。

映画『ゴジラ』(1954 東宝)

- 監督：本多猪四郎
- 特殊技術：円谷英二
- 製作：田中友幸
- 音楽：伊福部昭

『ゴジラ』(1954) あらすじ

- 貨物船等、南方海上で遭難 (原因不明)
- 大戸島に怪獣が出現 (深夜)
- 大戸島調査団派遣、怪獣を目撃
- 大戸島近海でのゴジラ攻撃作戦
- ゴジラ、東京湾に出現。品川付近に上陸
- ゴジラ、再上陸
- 芹沢博士、酸素破壊剤でゴジラを抹殺

注目点

・戦争の記憶

・科学者

・マスメディア

戦争の記憶

- 空襲
- 疎開
- 戦争未亡人と遺児
- 放射能

電車の乗客の会話

- 女：……原子マグロと放射能雨、そのうえ今度はゴジラと来たわ……

……

- 女：せっかく長崎の原爆から命拾いしてきた、大切な体なんだもの

……

- 男1：そろそろ疎開先でも探すとするかな
- 女：私にもどこか探しといてよ
- 男2：また疎開か

2回目のゴジラ襲来 (銀座?)

第2回ゴジラ襲来後の東京

国会公聴会

- 大戸島調査団の報告 (山根博士)

アメリカ水爆実験への言及

コジラの出現も、放射能汚染も、
水爆実験の結果

→潜在的なアメリカ批判

ふたりの科学者

芹沢大助 (化学者)
[配役：平田昭彦]

山根恭平 (古生物学者)
[配役：志村喬]

「博士」という称号

- 所属機関からの独立
- しがらみに縛られない「良心」

芹沢大助博士

- 「芹沢科学研究所」(自宅) でオキシジェン・デストロイヤーを開発

孤独な科学者

研究成果の悪用をおそれ、
秘匿しようとする芹沢

一方、山根は?

理解されない山根

- 政府方針への反対
- 作戦現場での異議
- 上層部へのアクセスがない?
- 身近な人たちからも理解されない
- マスメディアの一部は支持？

山根と芹沢の対比

主流派

VS.

一匹狼

共通点：

- 「科学」に対する姿勢
- 孤独

マスメディアの表象

- 紙面
- 現場で取材する記者
- 実況中継
- テレビ画面

芹沢の翻意

- 尾形と恵美子による説得
- 「平和への祈り」

プロパガンダの「強力効果」

「平和への祈り」の放送が、
芹沢の信念を短時間で覆す

メディアとの協力

- マスメディアに支援された英雄としての芹沢
- 船上の実況中継

わかりやすい構図

職業的使命に殉じるプロフェッショナル達

- 科学的真理を追究しながら、
  倫理に基づいて決断する科学者
- 事実を伝えるメディア
- 凡庸ではあるが協力的な国家

作り物としての映画

画面に写るものはすべて演出

→細部にも作り手の意図がはたらく

→受け手にも何かを受け取るはず

文学でも基本は同じ

　ただし、映像の情報量は格段に多い

発展的な問い

- 他の作品では?
- 現実との対応
- 時代による変化
- 他の社会では?

人文社会科学の研究対象

ふつうの人がふつうに知覚できるが、
意識化・言語化・体系化・一般化
しにくい事柄

→ 特別な測定装置を必要としない
→ **専門家の優位**はどこにあるか?

現代日本学専修について

2019年創立

6年経過したところ

(第4期生が現在4年生)

教員

田中 重人 教授 (社会学、社会調査法、家族論)

茂木 謙之介 准教授 (表象文化論、メディア史)

赤井 紀美 准教授 (日本演劇・芸能・文学)

西原 志保 助教 (日本文学)

＋ 兼務教員 (Christpher Craig, Orion Klautau, Clinton Godart)

「現代日本学」とは

現代 × 日本学 である

英語名：Innovative Japanese Studies

伴野文亮・茂木謙之介編 (2022)『日本学の教科書』文学通信.

目指すところ

学際化＋国際化

実際にはむずかしいが、どうすれば？

対象を絞り込む戦略

「複数の領域から魅力的に見える研究対象」

について

「自信をもって提示できる核心部分」

を追究する

高橋章則 (2022)「日本学の「場」を作る：東北大学を事例に」『日本学の教科書』文学通信, 31-52.

卒業論文の例

- 多田北烏の思考と作品 (2022年度)
- 津軽錦の「復元」と地域社会における受容 (2024年度)
- 『カードキャプターさくら』の研究 ― アダプテーションの視点から (2022年度)
- 雑誌『婦人公論』における「愛読者グループ」の研究 (2024年度)
- 2010年代における「パワースポット」言説の研究 ―旅行雑誌『るるぶ』の分析を中心に (2023年度)

研究指導体制 (3年次)

- 主・副の担当教員による定期的な相談
- 年2回の発表
- 年度末のレポート